

令和 5 年 5 月 19 日現在

機関番号：32636

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K13126

研究課題名（和文）1950-60年代における子どもの音楽文化の再編に関するメディア論的研究

研究課題名（英文）Media studies on the reorganization of children's music culture in 1950-60's

研究代表者

周東 美材（SHUTO, Yoshiki）

大東文化大学・社会学部・准教授

研究者番号：80725226

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1950-60年代のこどもの音楽文化に関してメディア研究の見地から検討を加えた。なかでも、占領期における放送システムの変容、戦前と戦後の文化的連続と断絶、そして戦後日本社会におけるアメリカナイゼーションといった側面をメディア論的な問題として重視し、これらの諸側面がこどもの音楽文化に与えた影響について考察した。

本研究は、その主な成果として1冊の単著（『「未熟さ」の系譜 宝塚からジャニーズまで』新潮社、2022年）を発表したことをはじめとして、8件の論文を刊行し、また6件の学会等発表を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近現代日本の音楽文化の特徴は「未熟さ」にあることに着目し、この特徴がメディアの変容を契機として生まれ、近代家族的な子ども観に基づいて形成されていったものであることを明らかにした。本研究の成果は、単著『「未熟さ」の系譜 宝塚からジャニーズまで』として完成させたが、本書の刊行後は、各種の一般のメディアやイベントを通じて研究成果の学術的意義・社会的意義を広くアウトリーチしていくことに努めた。具体的には、『週刊新潮』、『エンタメNEXT』、『Merkmal』、『WE Love 女子サッカーマガジン』などの雑誌、本屋B&B、猫町倶楽部などの読書サロン、テレビ番組「BOOKSTAND.TV」などである。

研究成果の概要（英文）：This research examined children's music culture in Japan in the 1950s and 1960s from the viewpoint of media studies and media theory. By examining issues such as the transformation of the broadcasting system during the Occupation period, the continuation and discontinuity between prewar and postwar times, and the Americanization of postwar Japanese society, I considered the impact of these aspects on children's music culture. The main results of this research include one single author, 8 papers, and 6 conference presentations.

研究分野：社会学

キーワード：メディア論 こども文化 童謡 うたのおねえさん 宝塚 ジャニーズ アイドル アメリカナイゼーション

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

多くの児童文化研究が明らかにしてきたように、近代日本におけるこども文化の誕生のひとつの画期となったのは、大正期の自由教育・芸術教育運動であり、『赤い鳥』等のメディアを通じて勃興した童話・童謡・自由画等の創作運動である。これらのこども文化は、印刷、録音、放送といった複製技術に媒介されながら 1910 年代後半から 20 年代にかけて隆盛を極め、都市の新中間層家庭を中心に子どもの新しい芸術と娯楽を提供した。だが、これらのこども文化は、1930 年代に入ると軍国主義に傾斜して「暗転」の時代を迎え、「少国民」の文化として動員されていった。敗戦後は、アメリカを中心とした占領体制下で、新たなこども文化が形成され、現代のこども文化の礎が築かれた。そのなかで、リベラルな大正期・昭和初期のこども文化の再評価と、「暗転」の 1930 年代のこども文化の反省がなされ、戦前・戦中のこども文化はある側面では戦後へと「連続」し、別の側面では「切断」されていった。

「連続」と「切断」というこども文化の再編を押し進めたのは、アメリカだった。メディアの検閲、教育制度の改革、家族・家庭(ホーム)をめぐるイデオロギーの刷新等の占領政策を通じて、アメリカはこども文化の民主化を進めた。これらの改革は、第二次大戦から冷戦への体制転換という喫緊の状況下で、日本と東アジアの共産主義化を阻止し、親米世論を喚起するという地政学的な戦略と意図に基づいて実施されたものでもあった。多くの占領期研究や戦後史研究が明らかにしてきたように、アメリカは、この占領政策を実行するために、終戦後から 1950-60 年代にかけて各種の文化政策・文化外交を精力的に展開し、なかでもテレビ、音楽、映画、スポーツ等のメディア文化を有力な戦略的手段として利用していった。

戦後日本のこども文化の再編もまた、これらのアメリカによる一連の「改革 = 冷戦下の東アジア戦略」のなかで構想されたものであり、メディアを利用したこども文化も従来の児童文学や児童文化を超えて、さらなる大衆的な広がりをもつものとなっていった。以上のような問題を研究開始当初の背景とすることで、本研究は、次のような課題を設定した。すなわち、1950-60 年代のこども文化におけるアメリカの関与を明らかにし、戦後日本のこども文化の再編過程を、メディア論の立場から理論的・実証的に解明することである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、こども文化のなかでも特に 1950-60 年代の複製技術に媒介された音楽文化を対象とし、メディア論の分析枠組みを導入することで、戦後日本のこども文化の再編を理論的・実証的に解明することにある。

本研究は、社会学などで研究が蓄積されてきたメディア論、とりわけメディアの歴史的文脈、文化的条件、社会的選択性を重視する立場(メディア技術の社会的構築に関する理論)を採用し、1950-60 年代のメディアと子どもの音楽文化の関係を実証的に解明していった。この時期のメディアと子どもの音楽文化の関係を考察するためには、放送メディアの確立と変容について考えることが欠かせない。そして、その制度化と変容の過程に多大な影響を及ぼした歴史的な文脈や文化的条件として重要な意味を持っていたのが、占領期・ポスト占領期におけるアメリカだった。よって、本研究は、メディア論の方法をこども文化研究へと導入し、アメリカナイゼーションの巨視的・微視的な政治学を仔細に分析していくことを通じて、新しい独自の研究の地平を切り拓くものとなる。

なお、こども文化の考察範囲を確定するにあたり、従来の児童文学研究、児童文化研究、幼児教育研究、幼児音楽教育研究といった諸分野が対象としてきた児童文学、幼児教材、教育放送などの文化のみならず、本研究では、広く茶の間の家族・子どもの娯楽としてテレビを通じて供されてきたような大衆的な文化も範囲に含めることとした。具体的には、「うたのえほん」、「シャボン玉ホリデー」、ジャニーズやグループ・サウンズなどのような、アメリカと対峙するなかで生み出されていったエンターテインメント性の高い文化も考察対象として扱った。

3. 研究の方法

上記の研究目的を達成するため、研究開始時には下記のような研究方法と研究計画を立てた。令和 2 年以降のコロナ禍により研究の遅滞や計画変更を余儀なくされたところもあったが、当初の研究目的は変更することなく、計画を遂行した。

【平成 30 年度】

(理論的研究)「メディア技術の社会的構築」とアメリカナイゼーション理論の批判的接合

(実証的研究)文献・インタビュー調査に基づく番組の編成・制作過程の解明

【令和元年度】

(理論的研究)上記の理論的研究と、文化冷戦・ポストコロニアリズム理論の批判的接合

(実証的研究)文献・レコード音源に基づくコンテンツの内容分析

【令和 2 年度】

- (理論的研究) 上記の理論的研究をこども文化研究に応用する方法論の確立
- (実証的研究) 収集資料に基づくオーディエンス研究
- 【令和3年度・令和4年度(補助事業期間延長分)】
- (理論的研究) こども文化研究におけるメディア論的な方法論的立場の確立
- (実証的研究) 「送り手 テキスト 受け手」の総合的考察とアーカイブの完成

4. 研究成果

上記の研究目的を達成するため、設定した方法・計画に基づき研究を遂行した。各年度に設定した理論的研究・実証的研究は、実際的には過去の研究活動の成果が次年度以降に発表されたり、次年度以降の課題を先取りして取り組んだりした場合もあったため、厳密に分割線を引くことが難しい部分もあるが、おおむね所期の計画通りに研究を進め、その結果として下記の成果を得ることができた。

(1)平成30年度の研究計画の主な課題は、第一に、理論的研究として「メディア技術の社会的構築」とアメリカナイゼーション理論の批判的接合を行うこと、第二に、実証的研究として文献・インタビュー調査に基づく番組の編成・制作過程の解明を行うことであった。

第一の理論的研究の成果として、論文「童謡100年の歩み メディアの変容と子ども文化」、ならびに論文「「子ども」という自画像 水の江瀧子からみる1930年代の国家意識」の2篇の成果を発表した。前者の論文では、『赤い鳥』創刊100年を振り返りながら雑誌、レコード、テレビといったメディアの変容と童謡の関係を明らかにし、とりわけ、テレビ時代におけるこども文化のアメリカナイゼーションについて考察した。後者の論文では、近代日本社会が「アメリカ」という優越的な他者を鑑としながら自己イメージを立ち上げていったという理論的仮説のもと、日本の大衆文化が「アメリカ」と対峙するなかで「子ども」というイメージを自らに付与することで形成されていったことを理論的・歴史的に明らかにした。

第二の実証的研究の成果として、インタビュー調査を実施した。本年度は、1950-60年代のテレビ業界において活躍した湯山昭氏(作曲家)、高田暢也氏(音効)、眞理ヨシコ氏(うたのおねえさん)、小嶋くるみ氏(子役・童謡歌手)の4名にインタビューを行った。これらのインタビューを整理することにより、「うたのえほん」、「みんなのうた」、「シャボン玉ホリデー」などの初期のテレビ番組が編成・制作される際に、子どもにいかなる役割が期待されていたのかを考察する貴重な資料が得られた。

(2)令和元年度の研究計画の主な課題は、昨年度の研究実績を踏まえて、第一に、理論的研究として、文化冷戦・ポストコロナリズム理論へと批判的に接合していくこと、第二に、実証的研究として文献・レコード音源に基づくコンテンツの分析を行うことであった。

第一の理論的研究の成果として、論文「タイガースからみたロックのローカル化」を発表した。本論文では、1960年代後半のグループ・サウンズ(GS)ととりわけザ・タイガースを対象とし、腫みのる氏へのインタビューを踏まえて、グローバルに展開したロック音楽が、日本社会のなかでいかに受容されていったのかを解明した。日本でのロックのローカル化で特徴的なのは、その児童性や少女性だった。本論が注目したのは、橋本淳(与田準一の息子)であり、彼が大正期の『赤い鳥』以来の児童文学の文化的遺産を引き継いでいたことだった。GSは、冷戦期の他の地域でのロック受容には見られない特異な現象であり、戦後日本のメディア史的条件と地政学的条件の交差するところに生まれた文化だった。

第二の実証的研究の成果として、論文「『未成品』としてのオペラ 1910-20年代の宝塚少女歌劇」を発表した。本論文では、宝塚少女歌劇の創設期に焦点を当て、文献資料と音源等を読み解くことを通じて、宝塚少女歌劇を生み出した社会空間・テクノロジーの再編、小林一三の理念と観衆との関係、「宝塚らしさ」の確立・陳腐化とレヴューの流行について考察した。これにより、世界的に類例のない少女だけのレヴュー団体が、児童博覧会やお伽歌劇といったこども文化を媒介とすることで形成されていくプロセスを明らかにした。

(3)令和2年度の研究計画の主な課題は、昨年度の研究実績を踏まえて、第一に、理論的研究として、これまでの検討をこども文化研究に応用する方法論の確立すること、第二に、実証的研究として収集資料に基づいたオーディエンス調査の再検証を行い、放送メディアの実態を送り手・受け手双方の相互作用を視野に入れて立体的に理解することであった。

第一の理論的研究の成果として、論文「童謡は「音楽文化」だったのか 1920年代におけるメディアの変容と消費社会」を発表した。本論文では、1920年代において「文化」概念が日本に紹介され普及していく過程について、桑木巖翼ら新カント学派の文化主義や森本厚吉らの文化生活運動の展開を考察することで、理論的に検討した。そのうえで、雑誌『赤い鳥』には当初、「文化」の語が不在であったことと、レコード産業などのメディアとの関係の中で「文化」の語が強調されるようになっていった過程を解明した。

第二の実証的研究の成果として、論文「茶の間に鳴り響くジャズ 1960年代における渡辺プロダクションの展開」と論文「「かわいらしさ」の上演 鷺津名都江に聞く「私が小嶋くるみだったころ」」を発表した。前者の論文では、アメリカの占領政策を通じて形成されていった

メディア文化、とりわけテレビ放送や芸能供給システムについて、渡辺プロダクションを事例として考察し、家庭という新たなオーディエンスが「国民」という全体性を持ちながら形成されていったことを考察した。後者の論文では、小嶋くるみという戦後のスターを対象として、テレビ放送によって生み出されたこども文化について考察した。

(4)令和3年度の研究計画の主な課題は、第一に、理論的研究としてこども文化を研究するためのメディア論的な方法論的立場を確立すること、第二に、実証的研究として「送り手 テキスト 受け手」の総合的考察し、またアーカイブを整理することであった。

これらの成果として、本年度は査読付論文「ロック・中国・学校唱歌 瞳みのるは近代国家といかに対峙したか」を学習院大学東洋文化研究叢書所収の論文として発表した。本論文は、かつてロックバンド「ザ・タイガース」のメンバーとして活動し、唐詩(杜甫)の研究者として文化大革命後の中国に渡り、現在は明治期学校唱歌の中国語訳を試みている瞳みのるの足跡に着目し、日本/英米/中国という3つの文化圏の往還のなかで立ち現れる国家意識と音楽文化の関係について考察したものである。

(5)令和4年度(補助事業期間延長分)の研究計画の主な課題は、昨年度、達成できなかった研究計画を遂行し、これまでの成果を総合し、研究を完了させることであった。

これらの成果として、本年度はこれまでの研究成果の集大成となる単著『「未熟さ」の系譜 宝塚からジャニーズまで』を新潮社より刊行した。本書は、1920年代の童謡、宝塚、1960年代の渡辺プロダクション、ジャニーズ、グループ・サウンズ、1970年代の「スター誕生!」といった音楽文化を対象とし、日本のメディア産業が近代家族的な子ども観や規範に動機づけられながら、独自のこども文化を形成していったことを明らかにしたものである。

また、本書には収められなかったが、重要な関連研究の成果として、論文「職業音楽家としての「うたのおねえさん」 眞理ヨシコに聞くテレビ番組「うたのえほん」のころ」を『東京音楽大学研究紀要』第46集に発表した。初代のうたのおねえさんとして知られる眞理ヨシコ氏に行ったインタビューをもとに、戦後日本社会に固有の職業音楽家である「うたのおねえさん」の成立過程について、占領期からテレビ放送体制の確立へというメディア論的な問題に即しつつ明らかにした。同じく本書に収められなかった成果として、研究ノート「《こんにちは赤ちゃん》と不自然な母性」をたばこ総合研究センター編『TASC monthly』566を執筆し、戦後日本の近代家族的な子ども観とメディア文化の関係について考察した。

さらに、本研究の完了にあわせて、鷺津名都江氏より提供を受けた1950-60年代の放送台本、楽譜、写真、映像、音源等の一次資料(約1,000点)について、国際標準記録史料記述一般原則: ISAD (G)の基準に沿って目録情報の整理を進め、さらにデジタル撮影を進めた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 周東美材 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 ロック・中国・学校唱歌 瞳みのるは近代国家といかに対峙したか | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 遠藤薫編著『学習院大学東洋文化研究叢書 戦中・戦後日本の<国家意識>とアジア 常民の視座から』勤草書房 | 6. 最初と最後の頁 167-190 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 周東美材 | 4. 巻 15 |
| 2. 論文標題 童謡は「音楽文化」だったのか 1920年代におけるメディアの変容と消費社会 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 幼児教育史研究 | 6. 最初と最後の頁 34-49 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 周東美材 | 4. 巻 44 |
| 2. 論文標題 「かわいらしさ」の上演 鷺津名都江に聞く「私が小鳩くるみだったころ」 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 東京音楽大学研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 79-97 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 周東美材 | 4. 巻 2 |
| 2. 論文標題 茶の間に鳴り響くジャズ 1960年代における渡辺プロダクションの展開 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 大東文化大学社会学研究所紀要 | 6. 最初と最後の頁 47-60 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 周東美材 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 「未成品」としてのオペラ 1910-20年代の宝塚少女歌劇 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 大東文化大学社会学研究所紀要 | 6. 最初と最後の頁 17-30 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 周東美材 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 童謡100年の歩み メディアの変容と子ども文化 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 童謡100年の歩み メディアの変容と子ども文化 | 6. 最初と最後の頁 15-28 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 周東美材 | 4. 巻 566 |
| 2. 論文標題 《こんにちは赤ちゃん》と不自然な母性 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 たばこ総合研究センター編 TASC monthly | 6. 最初と最後の頁 6-12 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 周東美材 | 4. 巻 46 |
| 2. 論文標題 職業音楽家としての「うたのおねえさん」 眞理ヨシコに聞くテレビ番組「うたのえほん」のころ | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 東京音楽大学研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 71-87 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 東谷護、山田晴通、大山昌彦、周東美材 |
| 2. 発表標題 地方創生にみるポピュラー音楽の観光資源化に関する日米比較研究の基礎作業 文化社会学からのアプローチ |
| 3. 学会等名 成城大学ミニ・シンポジウム「地方創生にみるポピュラー音楽の観光資源化に関する日米比較研究の基礎作業」 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|----------------------------|
| 1. 発表者名 周東美材 |
| 2. 発表標題 童謡の変容 詩・音楽・レコード |
| 3. 学会等名 幼児音楽研究会（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 首藤美香子・周東美材・浅井幸子・長井覚子 |
| 2. 発表標題 子どもの遊びが生まれるとき よみがえれ、文化の力 |
| 3. 学会等名 幼児教育史学会（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 宮野公樹・周東美材ほか |
| 2. 発表標題 学問の評価とは |
| 3. 学会等名 京都大学学際融合教育研究推進センター全分野結集型シンポジウム（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 周東美材 |
| 2. 発表標題 ドキュメンタリーとしての「スター誕生！」 戦後日本のテレビと子ども文化 |
| 3. 学会等名 国際シンポジウム 日本のポピュラー音楽をどうとらえるか |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 周東美材 |
| 2. 発表標題 文化と戦争 ジャニーズから見た戦後日本のメディアの変容 |
| 3. 学会等名 大東文化大学100周年記念シンポジウム 「帝国」を再考する コンタクトゾーンの文化とジェンダー |
| 4. 発表年 2023年 |

〔図書〕 計3件

| | |
|-------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 周東美材 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 新潮社 | 5. 総ページ数 288 |
| 3. 書名 「未熟さ」の系譜 宝塚からジャニーズまで (印刷中) | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 東谷護編著 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 せりか書房 | 5. 総ページ数 248 |
| 3. 書名 ポピュラー音楽再考 グローバルからローカルアイデンティティへ | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 遠藤薫編著 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 勁草書房 | 5. 総ページ数 285 |
| 3. 書名 日本近代における 国家意識 形成の諸問題とアジア 政治思想と大衆文化 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|